

九州大学（伊都）理学系講義棟・生活支援施設
基本計画書

平成24年3月

目 次

1. 基本的考え方・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

- 1. 1 基本計画書の役割
- 1. 2 本施設の位置付け
- 1. 3 施設概要
- 1. 4 立地特性
- 1. 5 機能配置の方針

2. 建築計画・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5

- 2. 1 ゾーニング・動線計画
- 2. 2 平面構成
- 2. 3 断面構成
- 2. 4 諸室の基本計画

1. 基本的考え方

1.1 基本計画書の役割

本書は下記の上位計画に基づき、理学系講義棟・生活支援施設の実施設計を行う上での基本的な方針を定めたものである。

- ・九州大学新キャンパスマスタープラン2001
- ・九州大学新キャンパス・バリエーション・ステータス・インフラ2004
- ・九州大学理学系地区基本設計
- ・九州大学新キャンパス水循環系保全整備計画
九州大学HP参照 (<http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/archive/index.html>)

1.2 本施設の位置付け

本事業は箱崎地区と伊都地区で分断状態にある教育研究環境の早期解消を目的とした統合移転整備事業の一環である。

統合移転は全体を三つのステージに分け、第1ステージで工学系等、第2ステージで全学教育等の移転が完了している。残る第3ステージでは理学系、文系、農学系等が移転することとなり、本施設は第3ステージの開始となる理学系施設の教育研究機能及び福利環境をサポートする重要な施設である。

1.3 施設概要

本施設は理学系総合研究棟に付随する施設であり、主に下記の組織が利用する。施設計画にあたり、想定人数を1,750人程度（理学研究院・理学府・理学部：1,100名程度、数理学研究院・数理学府・理学部数学科・M I研究所：370名程度、システム生命科学府：160名程度、事務職員120名程度）とする。

研究院	部門	学府	専攻	学部	学科
理学研究院	物理学	理学府	物理学	理学部	物理学科
	化学		化学		化学科
	地球惑星科学		地球惑星科学		地球惑星科学科
	生物科学				生物学科
		システム生命科学府			
数理学	数学	数理学	数理学	理学部	数学科
	数理学				
	M I研究所				

敷地場所

福岡県福岡市西区大字元岡744番地

施設用途

生活支援施設（食堂・売店）、講義棟

敷地面積

275ha

施設の延べ床面積

750m²

1.4 立地特性

本施設は、ウエスト・ゾーンの東側に位置し、工学系地区とセンター地区を結ぶキャンパス・モールに沿いに立地し、理学系総合研究棟に付随している。

敷地は東から西にかけて緩やかな上り勾配を有し、その地盤高は、東端部でおおよそ標高36m、西端部北側で40.5m、西端部南側で45mとなる。東端部北側には、埋蔵文化財の製鉄遺構があり、遺構上部を土盛りし、遺構を壊さない形でキャンパスを利用する計画である。

敷地北側はキャンパス・モールに面し、東側のセンターゾーンや西側の工学系地区へのスムーズなアクセスが可能である。

敷地南東側には総合体育館、西側は伊都図書館が建設されている。

敷地南側には背後に背振山系を擁す田園地帯を望む。

1.5 機能配置の方針

キャンパス・モール北側に計画される総合研究棟との連携に配慮するとともに、1階から3階の計画にあたっては、グリーン・コリドーからの来訪者やキャンパス・モールからのアクセスに配慮する。

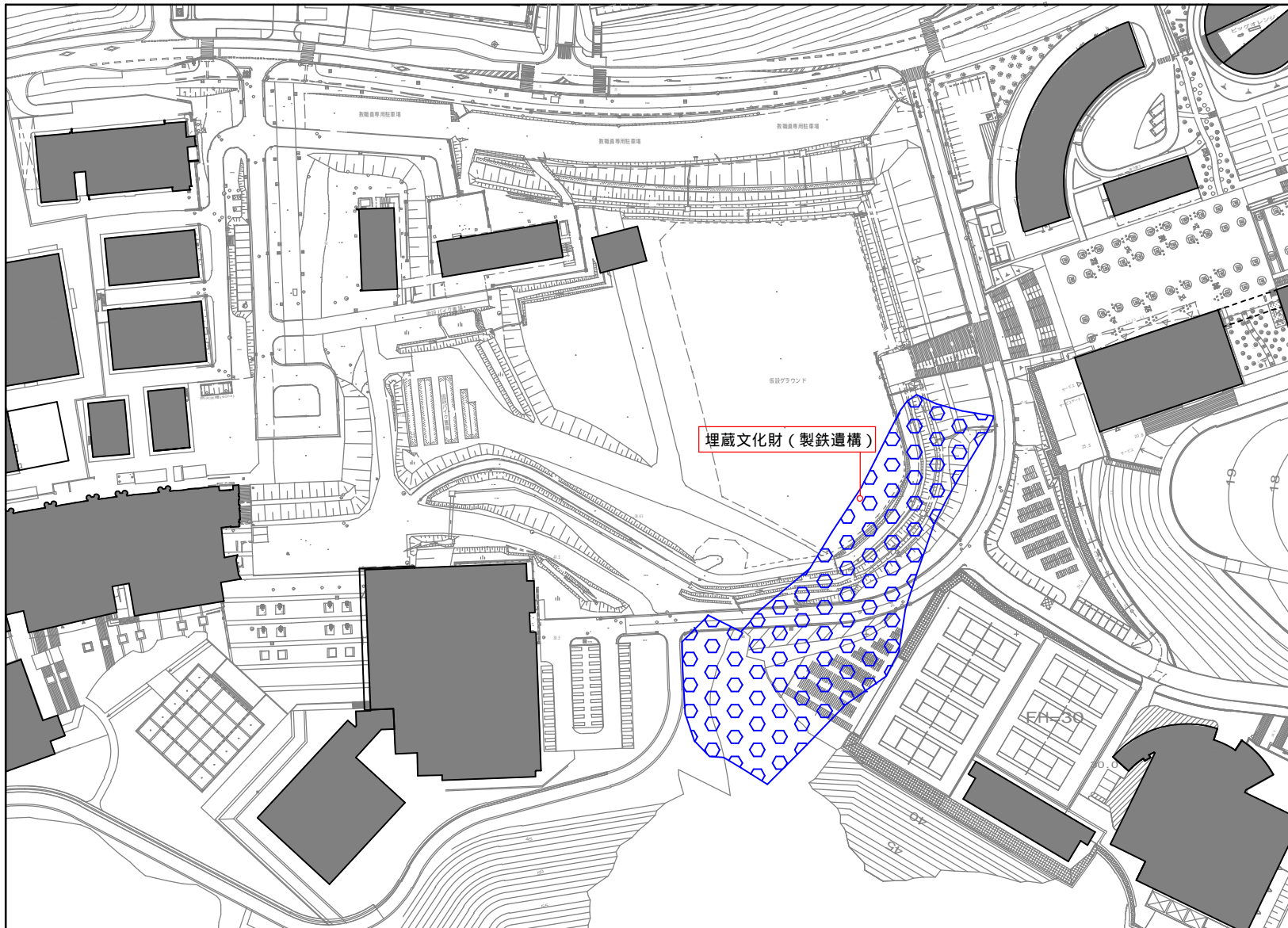
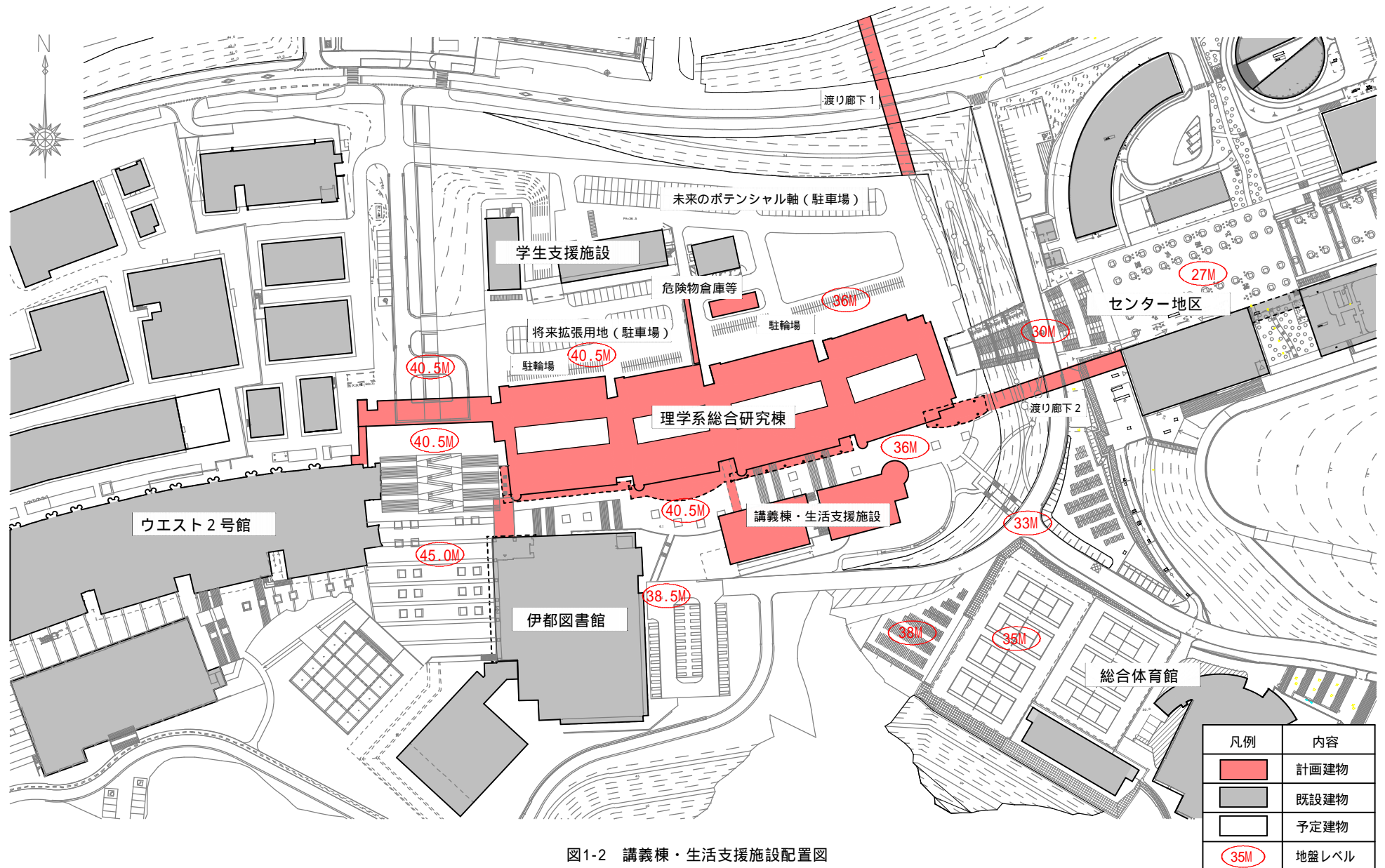


図1-1 講義棟・生活支援施設敷地現況図



2.1.1 ゾーニング・動線計画

2.1.1-1 建物のゾーニング

キャンパスモールに面した建物の北側中央にエントランスゾーンを設け、その両サイドに講義室と生活支援施設を配置する。また、センター地区側にはキャンパスモールに面してアイストップを配置する。

2.1.1-2 建物までのアプローチ

施設を初めて訪れる来訪者は、グリーン・コリドを抜け、キャンパスモール沿いの階段よりアクセスする。学生・教職員等の施設の利用者は、キャンパス・モールもしくは、3階レベルの渡り廊下からのアクセスが主要となる。1、2階は動線に沿って屋根や庇等を設け、雨に濡れずに移動できる空間を確保する。

2.1.1-3 建物内動線計画

一般用エレベータの配置は利用者に判りやすく、利便性に配慮する。

1階の動線特性

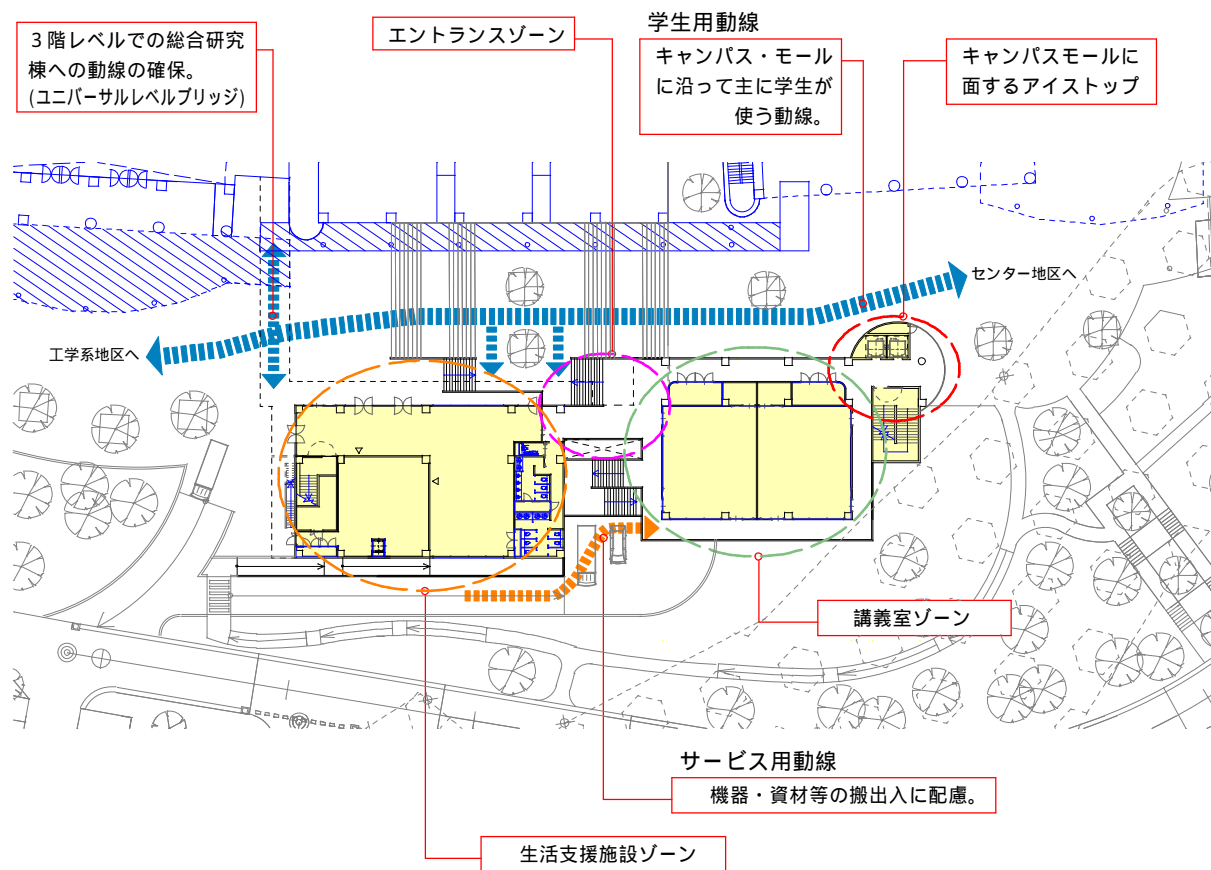
1階はグリーン・コリドからの来訪者や施設南側からの動線に配慮した計画とする。

2階の動線特性

2階は人々の往来の中心となる施設北側のキャンパス・モールからのスムーズなアクセスに配慮した計画とする。

3階の動線特性

3階は総合研究棟から、ブリッジを介して、雨に濡れることなく直接アプローチが可能な計画とする。



2. 建築計画

2.2-1 講義棟

講義室を配置する。

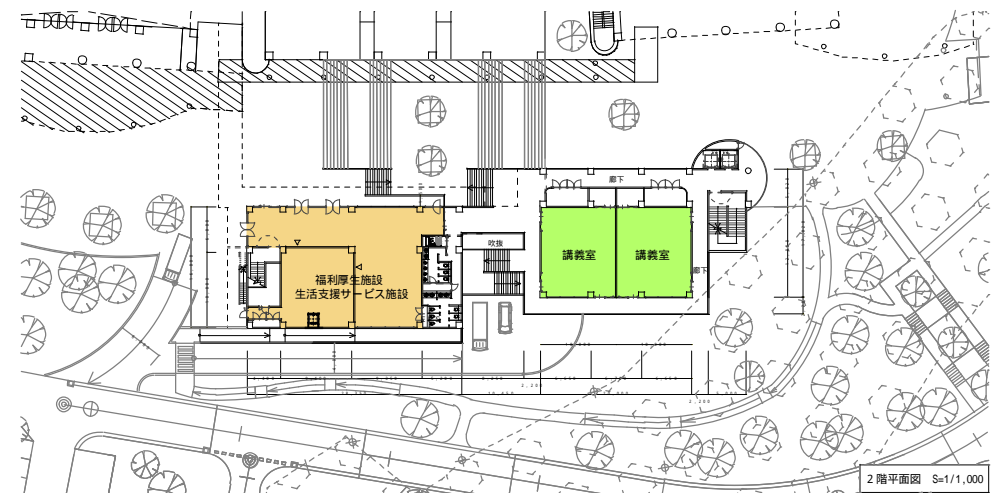
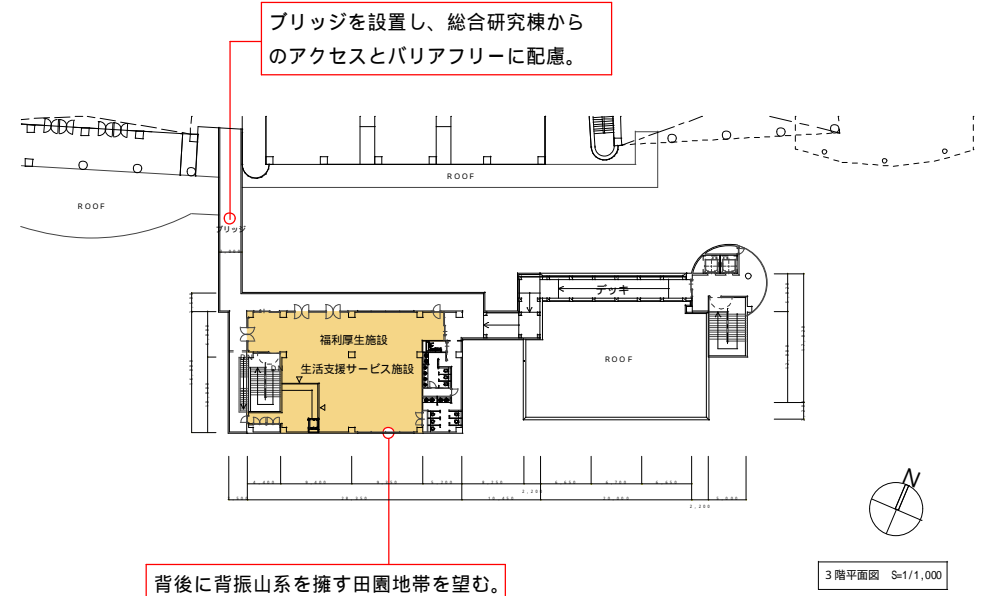
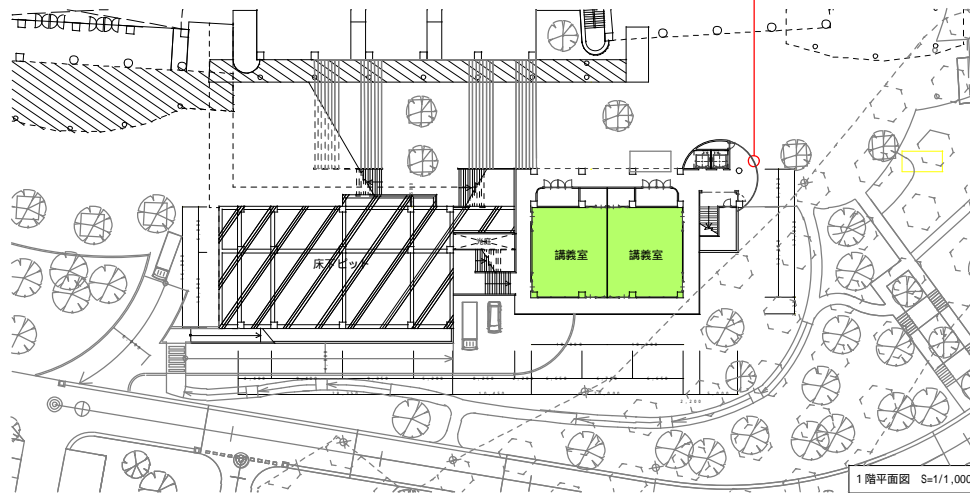
学生のキャンパス生活の拠点となるよう、自然環境に配慮し、採光、通風等の快適な生活環境を実現する。

2.2-2 福利厚生施設

主に食堂・売店等の施設を配置する。

■ 講義室
■ 生活支援施設

センター地区からのファサードを意識した外観。



2.4 諸室の基本計画

2.4-1 講義室

様々なマルチメディアに対応可能とするため、各室にAV架庫を設置する。

主要な出入口は、車椅子利用者のアクセスも考慮し、扉は大型の引き戸とする。

また、キャンパス・モールへのアクセスに配慮し、外部テラス側へも出入口を設ける。一部の講義室は、時間外利用者や学外者の利用に対応できるよう、セキュリティの区分が可能な配置計画とする。

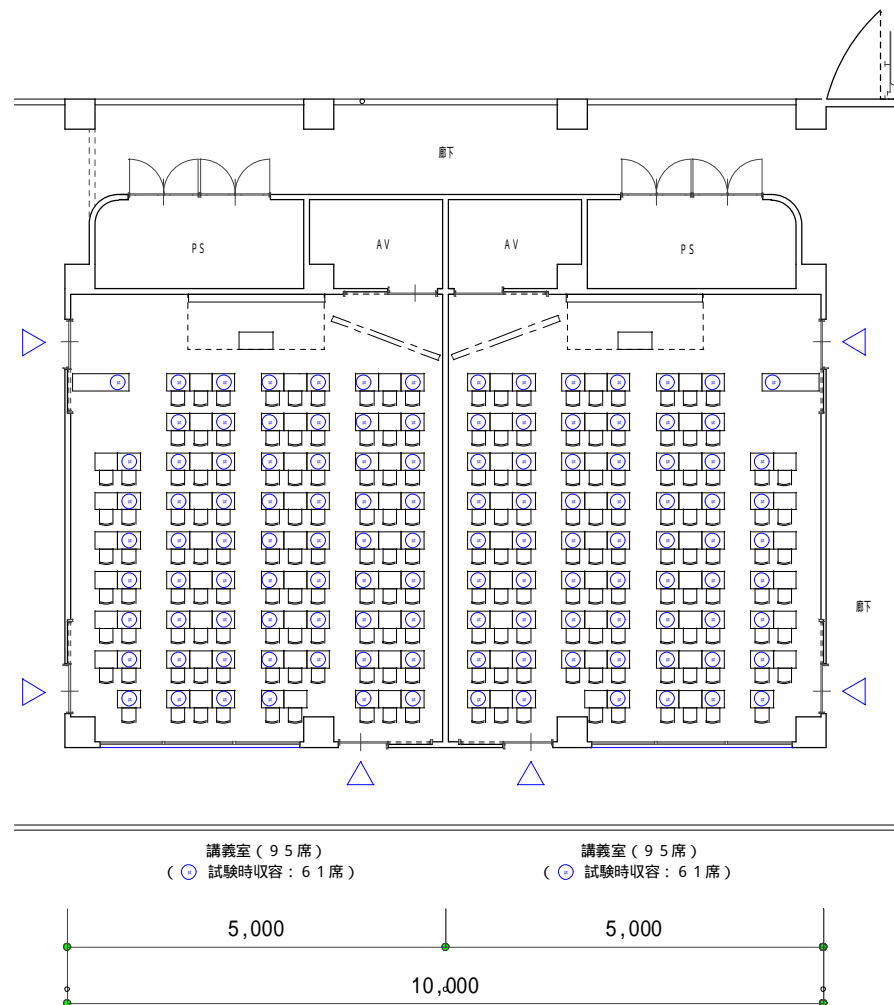
ユニバーサル・デザインに配慮し、講義室内に車椅子用机を設置する。

前面の黒板には講義室の壁面を最大限利用可能なものとし、上下2段式のものを設置する。

席数、部屋数は下記のとおりとする。

- ・ 95名席 4室 固定席

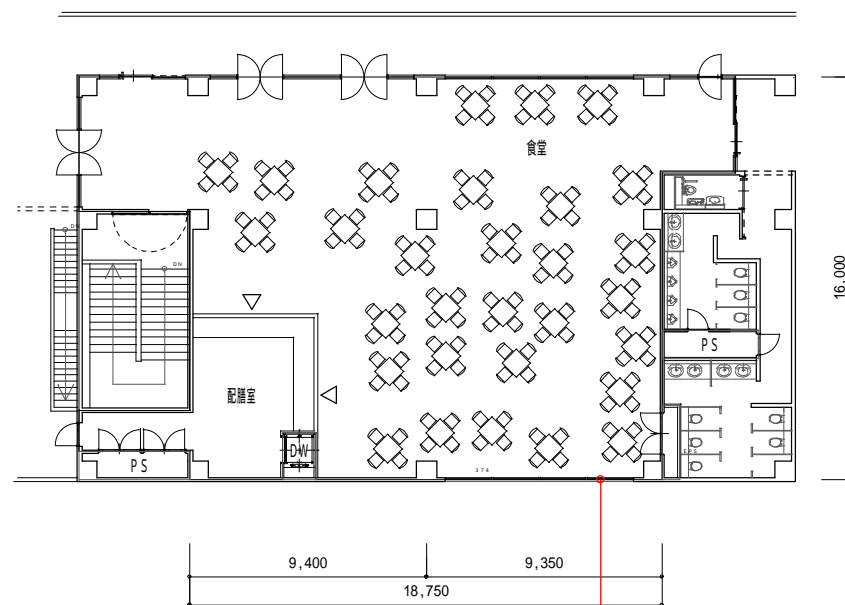
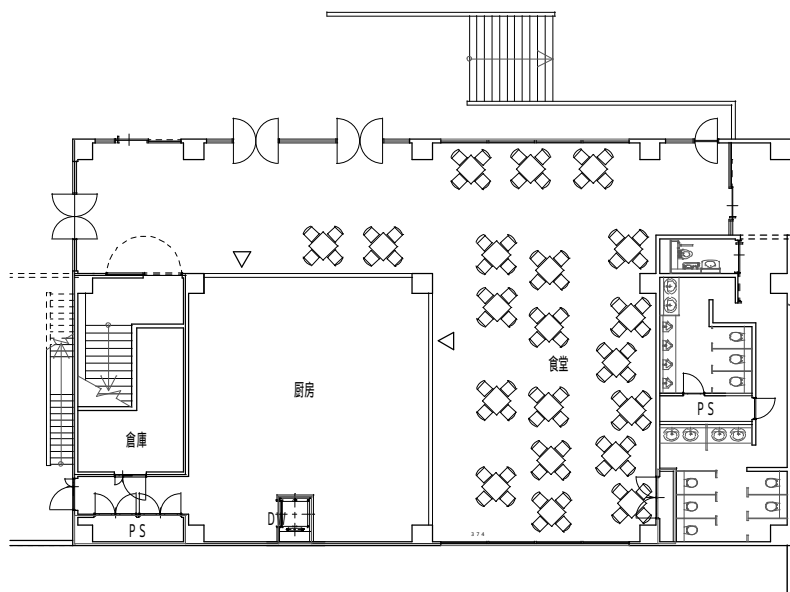
席数、部屋数は下記のとおりとする。



2.4-2 生活支援施設

生活支援施設は、食堂等の生活支援サービスの利用が可能な空間とし、利用者や事業者にとって使用しやすい動線とする。

また交流の場や、情報入手が可能な場として、状況、ニーズに応じた什器類を設置する。



キャンパス南側
への眺望に配慮した計画

2.4-3 屋外廊下

建物外部の自然環境の積極的な活用と人々のアクティビティが表出するよう、屋外廊下とする。屋外廊下は安全性やメンテナンス性に配慮する。また、エレベーター、トイレ等のコア施設と吹抜けとの関係性にも配慮する。

2.4-4 トイレ

トイレは誰もが快適かつ安全に使用可能とするため、福岡市福祉のまちづくり条例を遵守する。

トイレ配置及び衛生器具数算定の仮定条件

トイレは効率的かつ快適に利用できる場所に配置する。

必要衛生器具数の算定にあたっては、下記の算定人口から、同時使用率などに配慮し計画する。

人口の算定条件は想定人口の内訳を、現在の在籍者男女比率男子80%、女子20%で案分する。

必要衛生器具数の算定は、文部省機械設備工事設計資料(H8)の学校(限定利用・定員型)レベル1を準拠する。

2.4-5 エレベーター

エレベーターの設置位置は、施設利用者に判りやすい動線となるよう設置する。